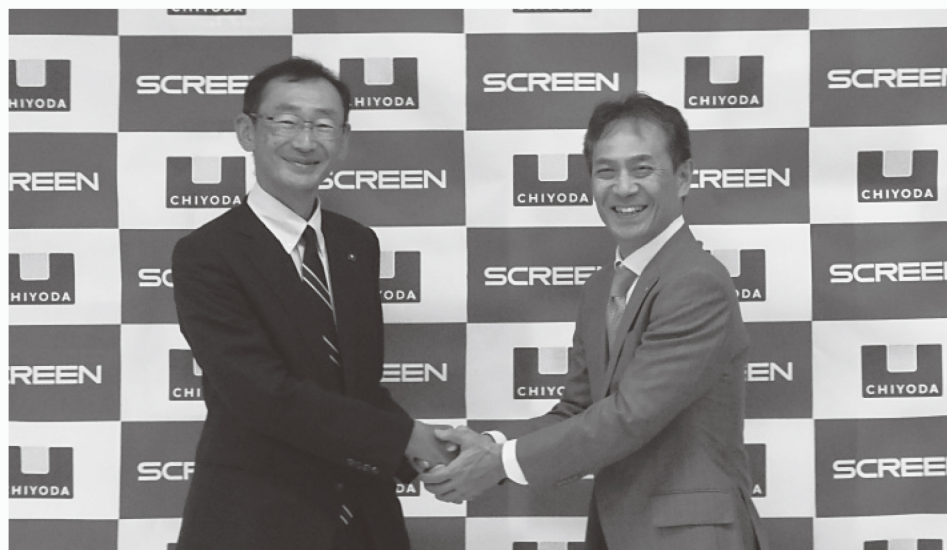


潮来第二工場で「Truepress PAC 830F」が本格稼働

—軟包装印刷のデジタル化でさらなる協業を—

(株)千代田グラビヤ／(株)SCREENグラフィックソリューションズ

株式会社千代田グラビヤ（佐藤裕芳社長，本社・東京都品川区）と，株式会社SCREENグラフィックソリューションズ（櫻井広美社長，SCREEN GA）は，軟包装印刷市場におけるデジタル化の推進と環境負荷低減を目的として2023年に協業を開始し，千代田グラビヤは潮来第二工場（茨城県潮来市）にSCREEN GAの水性デジタルインクジェット印刷



握手を交わす佐藤社長（左）と櫻井社長。軟包装のデジタル化に向けて両社今後も協業していく

機「Truepress PAC 830F」を世界で初めて導入した。この度，同機の立ち上げと印刷品質検証が完了し，千代田グラビヤは同機を活用した軟包装パッケージの本格的な生産を開始，すでに，紅茶専門店などに提供している。

これを受けて，7月7日，両社とSCREEN GAの国内販売会社である株式会社SCREEN GP ジャパン（岩本将基社長）が潮来第二工場で会見を開き，今後も協業しながら軟包装印刷のデジタル化へのチャレンジを続けていくことを強調した。

会見で佐藤社長は，Truepress PAC 830F導入までの経緯を「日本のお客様の色再現要求は世界で一番厳しい。当社はそのニーズに応えつつ，多品種・小ロ

ット，短納期といったニーズに応えるべく取り組んできた。また，近年ではグローバルで環境対応がクローズアップされている。それにも対応もしていかなければならない。一方で，人手不足といった課題も抱えている。そのために，働きやすい快適な職場環境をどのように構築していくかということも課題となっている。こうした中，当社では，主力のグラビア印刷に加えて，デジタル印刷を活用した，新しい生産方法を模索してきた。そこで，SCREEN GAをパートナーとして，Truepress PAC 830Fを導入し，お客様の多様なニーズに応えつつ，環境にも配慮した『新しいものづくり』にチャレンジすることにした」と説明。

そして「当社では，デジタル印刷機を活用した新しい商品群とサービスを『Eco Smaart（同社による造



新井執行役員



岩本社長



Truepress PAC830F で印刷した紅茶のパッケージ

語)』と名付け、これから展開していく。『Eco Smaart』はグラビア同様の高い印刷品質を維持し、完全水性印刷によるデジタル印刷で、従来にはない、新しい環境対応をアピールできる価値をお客様に提供していく。さらに、デジタル印刷の特長を活かし、小ロット案件対応も強みにすることができる。社内の課題を解決しつつ、お客様にも価値提供が可能になるというWIN-WINのソリューションとして展開していく。今後も、SCREEN GAと協力し、様々な面で課題解決しながら前へ進んでいきたい」と述べた。

続いて櫻井社長が次のようにあいさつした。

「当社では2005年から、連帳式のインクジェットデジタル印刷機の販売を開始し、商業印刷、データプリント、ラベル印刷へと商品提供を広げてきた。今回、千代田グラビヤに導入いただいたTruepress PAC 830Fは、2020年5月に開発に着手し、その後、各展示会でサンプルを展開し、水性インクジェット機での軟包装印刷をアピールしてきた。2023年10月の発売開始とともに千代田グラビヤ様との協業を発表し、本機の導入という、本当に大きな決断をしていただいた。その決断に感謝申し上げたい。また、稼働までには、当社の工場にまで何度も足を運んでいただき、印刷品質などさまざまな課題解決に協力していただいた。そのことにも感謝申し上げたい。本日、こうした場を設けることができたが、これはほんのスタートであり、これからも千代田グラビヤとともに、Truepress PAC 830Fの改良、次世代機の開発と、水性インクジェット印刷機による軟包装印刷を発展させていきたい」

最後に岩本社長が「当社は導入いただいたTruepress PAC 830Fのアフターフォローを担当する。2台目、3台目につながるよう、しっかりとお手伝いしていく。この度の導入、立ち上げにあたり、当社グループでは持ち合わせていない軟包装印刷の知見について、千代田グラビヤからは、数多くご教授をいただいた。多品種・小ロット化、人手不足という課題のため、先んじて本機を導入いただいた、この取組みが、日本の軟包装印刷に革新をもたらすことを確信している。今年のinterpack 2026では千代田グラビヤの印刷サンプルを展示し、世界に対しても取り組みをアピールできた。10月のTOKYO PACK 2026でもブランドオーナーに向けて、デジタル印刷の実用性、効果といったものをピーアールしていく。また、当社では、スペインのCOMEXI社のEBオフセット機も取り扱っている。デジタル印刷機との両面でパッケージ印刷の環境負荷の低減に貢献していく」と述べた。

▶ ロットに応じた適切な使い分けで生産を効率化

千代田グラビヤの新井禎典執行役員（パッケージ事業部長）は、導入による4つの価値を解説した。

「多品種展開によるブランド価値向上」は、パッケージサイズを共通化し、多様なデザイン展開を可能にして、地域限定、テスト品マーケティング商品などの企画提案を支援する。

「SKU (Stock Keeping Unit) 最適化と在庫の削減」は、必要な数量を必要なタイミングで提供できる